



【住 所】栃木県宇都宮市中戸祭1丁目10番37号

【病 院 長】勝又 貴夫 先生

【病 床 数】462床(一般456床、感染6床)

【スタッフ】常勤医師8名(指導医1名、専門医7名)、非常勤医師 4名、
専属看護師 4名(うち内視鏡技師 3名)

【内視鏡検査総数】3,000件

【治療内視鏡総数】555件(平成20年度)

【保有内視鏡】上部用(経鼻含む) 9本、下部用 4本、十二指腸用 2本、
気管支用 3本

患者様の利益を最大限に追及するため 地域の医療水準向上に尽力

内視鏡センターの共同利用で 住民と地域の医療機関へ最大限のメリットを提供

国立病院機構 栃木病院は、明治41年に陸軍衛成病院として宇都宮の地に創設されてから100年以上の歴史を誇る、伝統ある地域の中核病院です。地域の施設やクリニックには同院のOB・OGの先生方が多くいらっしゃることから、同院の内視鏡センターでは周辺施設との病診連携に特に力を入れています。近年では、専用のインターネット回線を用いて周辺施設とのネットワークを構築し、内視鏡設備をもたない開業医の先生方から直接検査の申し込みを受け付ける独自の予約システムを導入しました。これにより、同センターが他施設と一体化した形で運営され、またその先生方が一緒に検査を行えるようになりました。内視鏡センター長で消化器内科の医長も務められる上原慶太先生は、「内視鏡検査の普及を進めることで、地域住民の健康に対する意識の向上や疾患の早期発見を促し、それにより地域に貢献できるのではないかと考えています。『より多くの患者様に、より早いうちに、より気軽に内視鏡検査を受けていただく』にはどうすれば良いかを常に考えています。このシステムにより、患者様には安心して検査や治療を受けていただける環境を提供できるようになったと考えています」と、内視鏡設備の地域での共同利用のメリットについてお話になりました。



内視鏡センター長・
消化器内科 医長
上原 慶太 先生

地域の医療水準向上のため 最新の技術を導入

同院では、平成15年1月に内視鏡センターの全面的な改装を行いました。患者様とスタッフの動線を完全に区別し、また Consent 等の配線を天井から吊り下ろすようにするなど、限られたスペースをなるべく広く効率的に使えるよう工夫がなされています。検査や治療はなるべく患者様のニーズに応えるべく柔軟に対応していますが、たとえば患者様の中には経鼻内視鏡について全く無痛で行えると認識している場合や、また胃癌やピロリ菌について誤解されている場合も少なくないため、検査室の前には疾患や検査について正しく理解いただくための資料を設置しているそうです。

また同センターの特徴として、胃瘻の造設件数が年々増加傾向にあることが挙げられますが、これは地域で胃瘻の安全性やメリットに関する認知が広がり、理解が進んでいることに起因していると思われる。その他、早期胃癌に対するEMRやESDの適応拡大例なども増えており、上原先生は、「地域の患者様が最善の検査や治療を受けられるよう、新しい技術や知識の習得を積極的に行っています。またこうしたスキルを、地域連携を通じて広く普及させていくことも重要です」とお話になり、中核病院の使命として地域の医療レベルを標準化することを目標に掲げていらっしゃいました。



内視鏡技師としての専門スキルと看護師としての温かい目線で患者様にとって最善の診療環境を提供する

内視鏡センターでは4名の専属看護師を配置し、多くの検査や処置にあたっていますが、そのうち3名は内視鏡技師の資格を有する内視鏡領域のプロフェッショナルです。同センターでは紹介患者が多いため、夜間も内視鏡専門医と内視鏡技師が24時間オンコール体制で対応し、緊急内視鏡等の救急診療に当たっているそうです。このような夜間診療に適切に対応するため、同センターでは治療内視鏡の介助も含めたスタッフの教育マニュアルを作成し、定期的にスキルのチェックをしながら適切な技術の習得を目指しています。これが評判を呼び、他施設のスタッフも同センターで研修を受けることもあるそうです。栃木県の消化器内視鏡技師会会長を務められる内視鏡技師の田井由美子さんは、「当センターの内視鏡技師は全員が看護師であり、その役割の中でさらに内視鏡技師という専門的な知識や技術を身につけ、それを日々の診療に活かすつもりで業務に当たっています。当院は高齢の患者様の割合が多く、検査や処置に不安を感じられる方も多いので、私たちは常に自分の身内が受診する気持ちで接するように心がけていま

す。専門職としてできるアドバイスを、やさしく思いやりをもって患者様にお伝えすることで、患者様にはリラックスして検査や処置を受けていただけるのではないかと考えています。また、患者様に最高の検査や治療を提供するためには、医師がその力を最大限に発揮できる環境を提供することも、看護師として重要な役割です。物品の手配はもちろん、言葉遣いやスタッフの配置など、医師が安心して診療に当たれる雰囲気づくりを心がけています」と、スタッフ個々の人間性や細やかな気配りの重要性についてご説明いただきました。実務上で特徴的なのは、近年抗凝固剤の後発品が非常に多く多岐にわたるため、薬剤部と連携して近隣で処方されている薬品名を調査し、それを元に独自の問診表やチェックリストを作成して安全な検査や治療に備えている点です。また、最新の内視鏡手技についての知識を高めるため、研究会等への積極的な参加を奨励し、技師会等での研究発表も行っているそうです。



看護師・内視鏡技師
田井由美子さん



内視鏡センターの皆さん